
ある馬鹿の天才二人の日常会話

メネ@分家

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある馬鹿の天才二人の日常会話

【Nコード】

N0511Q

【作者名】

メネ@分家

【あらすじ】

馬鹿なのか天才なのか分からない二人の会話。

(前書き)

ガチでこのサイト忘れてました、やばいやばい。
あとこういう屁理屈会話大好きです。今後書いていきたい W

「……あれ？ 今日って確か降雨確率十パーセント以下だよ。どうして傘持ってきてるの？ あ、分かった、馬鹿か」

「ただ単に天気予報を見るのを忘れただけだ。天気ってのは雨が『降る』と『降らない』の二択、だから確率は五分五分、傘があった方が良く判断した」

「へえ、何その画期的な確率論。大学に入っても論文はばっちしだね。けどその考えだと毎日傘が必要になるよ？」

「そう、だから天気予報があるんだよ。それと、」

「……それと、って何？」

「俺は馬鹿じゃない、阿呆だ。何度言えば分かる」

「何度言われても馬鹿を阿呆と訂正する意味が分かんないからいつも馬鹿って言ってるんだけど」

「そうか、じゃあ教えよう。……いいか、馬鹿ってのは知能が劣っている事だ。テストの点が低い、人の話を理解できない」

「うん、じゃ阿呆は何なの？」

「阿呆ってのは知能関係なしに愚かって言うんだよ。そうだな、馬鹿と同じテストで言ったら簡単な公式をたまたま間違える、人の話じゃ……」

「あーいいいいよ。理解した。つまり君は高慢ちきで自分の知能が劣ってないと確信してるから、消去法で馬鹿を消して残ったのは阿呆だった、って事？」

「そういう事になるな。次から間違えるなよ」

「へいへい」

「……ところで、それはなんだ」

「ん？ ああ、東大の理学科の過去問だよ」

「ああ、俺が持ってるのと同じか。答え合わせするか？」

「ちようど探してたんだ、頼むね」

「お前凄いな、応用はまだまだだけど基礎はばっちりじゃないか」

「君もね。……あ、ねえ、ここ公式も計算も間違ってるよ。君って阿呆？」

「……そこは馬鹿でいいんだよ、阿呆」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0511q/>

ある馬鹿の天才二人の日常会話

2011年1月16日02時32分発行